

今から始める！

放課後児童クラブICT導入セミナー

株式会社 船井総合研究所
永田屋悠人

講師紹介



株式会社船井総合研究所 子育て支援部 チーフコンサルタント 永田屋 悠人（ながたや ゆうと）

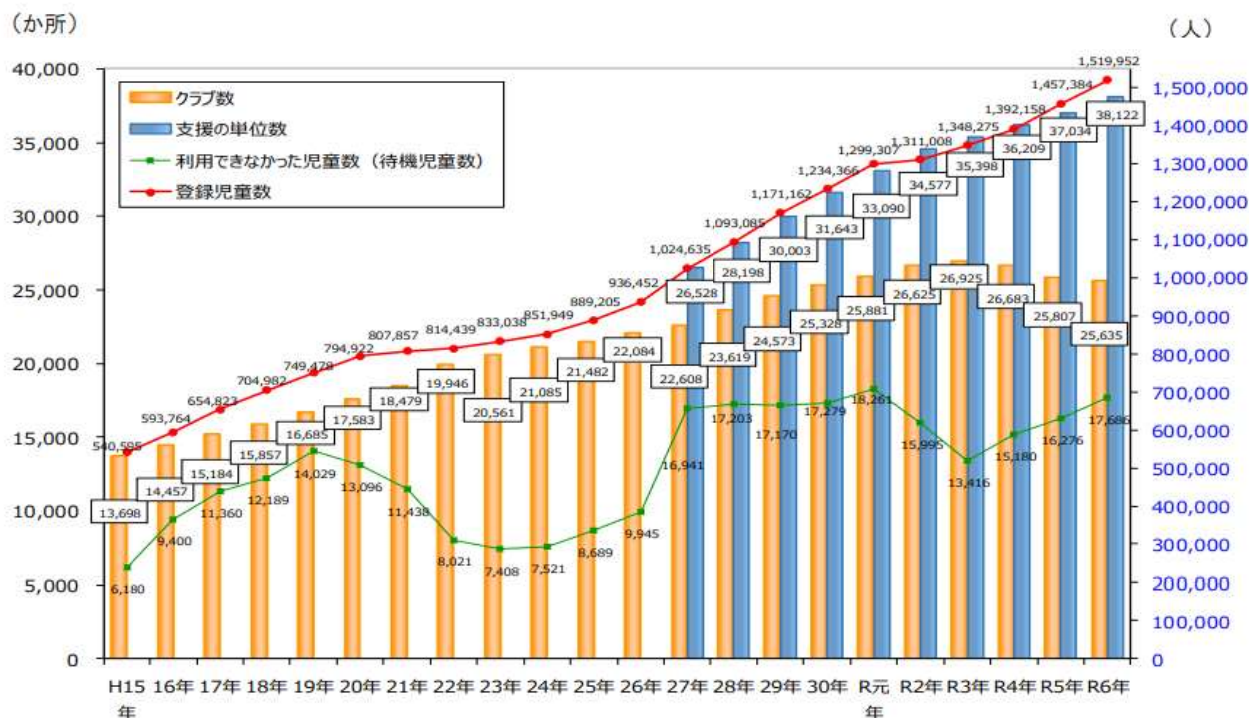
神戸大学経営学部卒業後、船井総研に入社。
保育事業への新規参入のサポートや、開園後の運営の安定化支援を中心に行う。
また、大手企業や官公庁・行政の保育関係のプロジェクト・マネジメントについても
多数の実績を持つ他、認可保育園の公募プロポーザル支援や
受託運営事業のコンサルティングにも実績を持ち、携わる領域は多岐に渡る。

学童業界を取り巻く外部環境

1. 放課後児童クラブ登録児童数等の状況

- 登録児童数及び支援の単位数は年々増加傾向にあり、
 - ・登録児童数は、対前年62,568人増の1,519,952人、
 - ・支援の単位数は、対前年1,088支援の単位増の38,122支援の単位、
 - ・クラブ数は、対前年172か所減(※)の25,635か所、となっている。
 - また、利用できなかった児童数(待機児童数)は、対前年1,410人増加し、17,686人となっている。
- ※クラブ数減少の大きな要因は、昨年度まで支援の単位数をクラブ数として報告していた自治体があり、当該自治体はその是正を行ったため。

【クラブ数、支援の単位数、登録児童数及び利用できなかった児童数の推移】



学童業界を取り巻く外部環境

喫緊の課題となっている放課後児童クラブの待機児童の解消に向けた受け皿整備等に関し、引き続き「場の確保」「人材の確保」「適切な利用調整（マッチング）」に取り組みつつ、浮かび上がってきた**3つの課題に**対応した**6つの対応策**を追加して整理。

3つの課題

①待機児童発生状況の偏り

- ・長期休業前に多くの待機児童が発生（**時期**）
- ・特に必要性が高い小1の待機児童の発生（**学年**）
- ・一部の自治体において特に発生（**地域**）

◆待機児童数の変化	5月1.8万人 → 10月0.9万人
◆小1の待機児童数	2,209人（全体の12.5%）
◆待機児童の発生	東京都、埼玉県、千葉県で 全体の4割（R5と同様）

②補助事業の未活用等

- ・様々な補助メニューの一層の周知が必要。
- ・安全対策のための定員管理の必要。

③関係部局間・関係者間の連携

- ・福祉部局・教育委員会間での連携が不十分で、放課後児童クラブ・学校関係者の一層の連携協力が必要。

6つの対応策

1. 夏季休業期間中等の開所支援。
2. 特に就学にあたっての不安が大きい小学校新1年生の待機の解消。
3. 待機児童数の多い自治体に向け、民間の新規参入支援、人材確保策の実施、待機児童に対する預かり支援を行う等のモデル事業等を展開。
4. 待機児童数の多い自治体について、補助事業の丁寧な周知を図るとともに、補助事業の活用状況を含めた取組状況や待機児童の状況の詳細を公表。
5. 緊急的に受け入れ増に至った場合の安全対策について更なる方策の検討等。
6. 運営委員会や総合教育会議の活用促進、学校施設活用に際し教師の負担を生じさせることのない管理運営等の好事例の共有。

学童業界を取り巻く外部環境



放課後児童対策パッケージ2025（令和6年12月）概要



趣旨

- 「新・放課後子ども総合プラン」「放課後児童対策パッケージ2024」の実施により、受け皿確保は目標としていた152万人分をほぼ達成（151.9万人）。一方で、待機児童数は令和6年5月1日時点で1.8万人と、令和5年度の同時期（1.6万人）に比べて増加。
- 待機児童対策の一層の強化と放課後の児童の居場所確保に向け、こども家庭庁と文部科学省が連携し、予算・運用等の両面から令和6～7年度に集中的に取り組むべき対策として充実を図り、パッケージを改訂するものである。

1. 放課後児童対策の具体的な内容について

放課後児童クラブの実施状況（R6.5.1）登録児童 151.9万人 待機児童 1.8万人
（R6.10.1）登録児童 147.1万人 待機児童 0.9万人

（1）放課後児童クラブにおける待機児童の解消策

1）放課後児童クラブを開設する場の確保

- ① 施設整備に係る補助率の嵩上げ【R6補正】
- ② 学校（校舎、敷地）内における整備推進
- ③ 学校外における整備推進（補助引き上げ）
- ④ 賃貸物件等を活用した受け皿整備の推進（補助引き上げ）
- ⑤ 学校施設の積極的な活用
- ⑥ 保育所等の積極的な活用
- ⑦ 民間事業者による参入支援【R6補正】
- ⑧ スモールコンセッションによる事業所整備の周知

2）放課後児童クラブを運営する人材の確保

- ① 常勤職員配置の改善
- ② 職員に対する処遇改善
- ③ 職員の確保支援【R6補正】
- ④ 平日夜間の人材確保支援【R7拡充】
- ⑤ 保育士・保育所支援センター等やハローワークと連携した人材確保支援
- ⑥ ICT化の推進による職員の業務負担軽減【R6補正】
- ⑦ 育成支援の周辺業務を行う職員の配置による業務負担軽減
- ⑧ 放課後児童クラブ分野のDX化による職員の業務負担軽減【R6補正】

3）適切な利用調整（マッチング）

- ① 正確な待機児童数把握の推進、待機児童の詳細の公表
- ② 利用調整支援や送迎支援の拡充による待機児童と空き定員のマッチングの推進等

4）時期的なニーズ等への対応

- ① 夏季休業期間中における開所支援【R7拡充】
- ② 年度前半の開所支援のあり方の検討
- ③ 支援の単位あたりの児童数の考え方の検討

5）自治体へのきめ細かな支援とコミュニティ・スクールの仕組みの活用推進

- ① 待機児童が多数発生している自治体への支援
- ② コミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後児童対策の推進

（2）全てのこどもが放課後を安全・安心に過ごすための強化策

1）多様な居場所づくりの推進

- ① 放課後児童クラブと放課後子供教室の校内交流型・連携型の推進【R7拡充】
- ② こどもの居場所づくりの推進（モデル事業、コーディネーター配置）【一部R6補正、R7拡充】
- ③ コミュニティ・スクールの仕組みを活用した放課後児童対策の推進（一部再掲）
- ④ 特別な配慮を必要とする児童への対応【一部R6補正】
- ⑤ 放課後児童クラブ待機児童への預かり支援実証モデル事業【R6補正】
- ⑥ 朝のこどもの居場所づくりの推進（好事例周知、機運醸成等）
- ⑦ 能登半島地震を踏まえた災害時の放課後等におけるこどもへの支援

2）放課後児童対策に従事する職員やコーディネートする人材の確保

- ① 常勤職員配置の改善（再掲）
- ② こどもの居場所づくり支援体制の構築等を行うコーディネーター配置支援（再掲）
- ③ 地域学校協働活動推進員の配置促進等による地域学校協働活動の充実

3）質の向上に資する研修の充実等

- ① 放課後児童対策に関する研修の充実
- ② 性被害防止、不適切な育成支援防止等への取組【一部R6補正】
- ③ 事故防止への取組
- ④ 「はじめの100か月の育ちビジョン」と連携した広報
- ⑤ 放課後児童クラブ運営指針の改正
- ⑥ いわゆる「スキマバイト」への対応

2. 放課後児童対策の推進体制について

（1）市町村、都道府県における役割・推進体制

- ① 市町村の運営委員会、都道府県の推進委員会の継続実施
- ② 総合教育会議の活用による総合的な放課後児童対策の検討

（2）国における役割・推進体制

- ① 放課後児童対策に関する二省庁会議の継続実施
- ② 放課後児童対策の施策等の周知

3. その他留意事項について

（1）放課後児童対策に係る取組のフォローアップについて

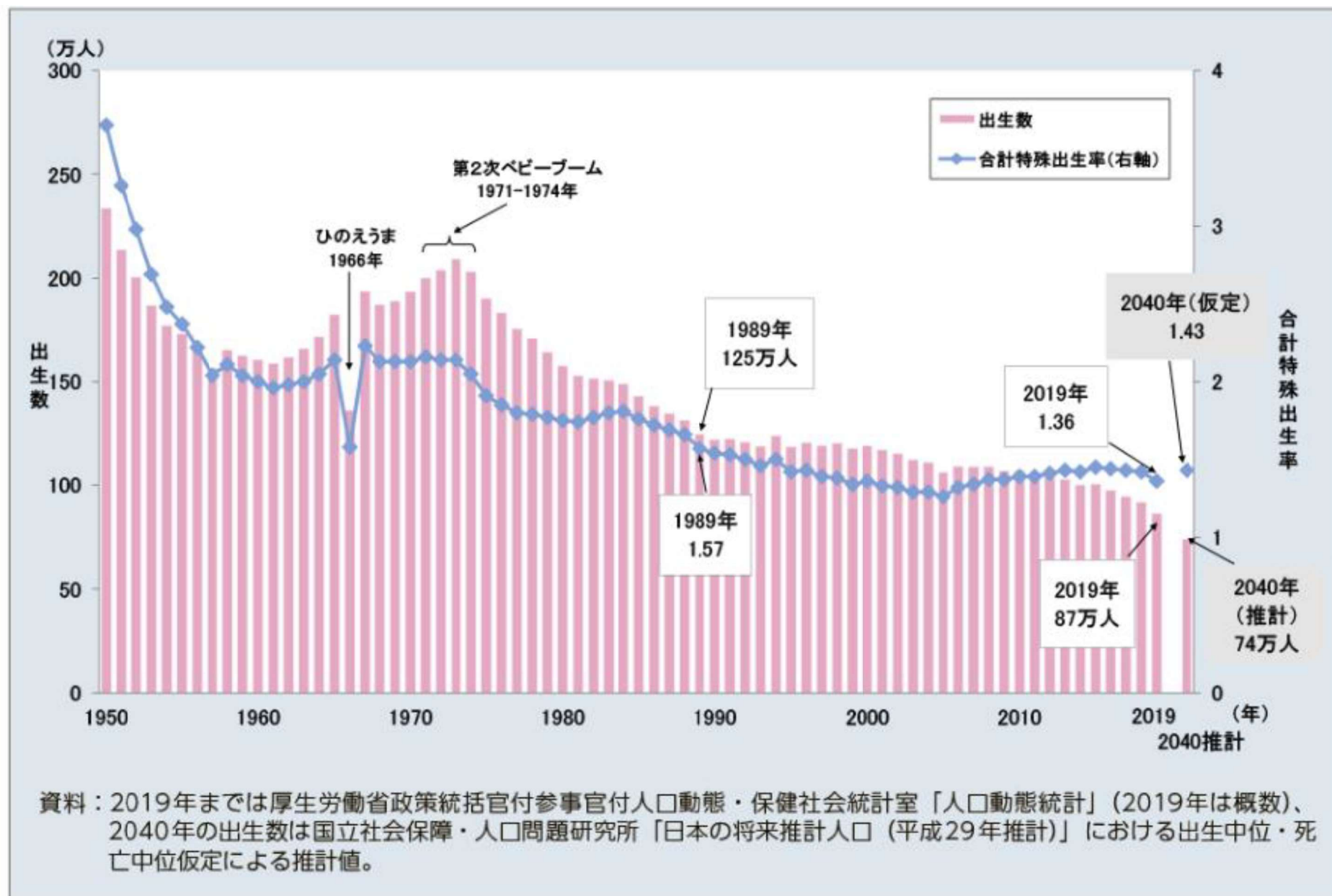
- ① 放課後児童クラブの整備<152万人の受け皿整備を進め、できる限り早期に待機児童解消へ>
- ② 放課後児童クラブと放課後子供教室の連携<同一小学校区内でできる限り早期に全てを連携型へ>
- ③ 学校施設を活用した放課後児童クラブの整備<新規開設にあたり所管部局が求める場合、できる限り早期に全て学校施設を活用できるように>

（2）子ども・子育て支援事業計画との連動について

（3）こども・子育て当事者の意見反映について

※丸数字の下線は、主な新規・加筆項目

学童業界を取り巻く外部環境



学童業界を取り巻く外部環境

II 業界トピックから考える今後のこども・子育て業界

需要 > 供給

「認知」されれば入所につながる
質も大切だが「入れる」ことが重要

需要 < 供給

認知し「比較検討」の上での入所
一番良い施設を選ぶことができる

「質」充足率に直結する時代に

「選ばれる施設」を目指す

学童業界を取り巻く外部環境

II 業界トピックから考える今後のこども・子育て業界

需要 > 供給

需要 < 供給

「認知」されれば入所につながる
質も大切だが「入れる」ことが重要

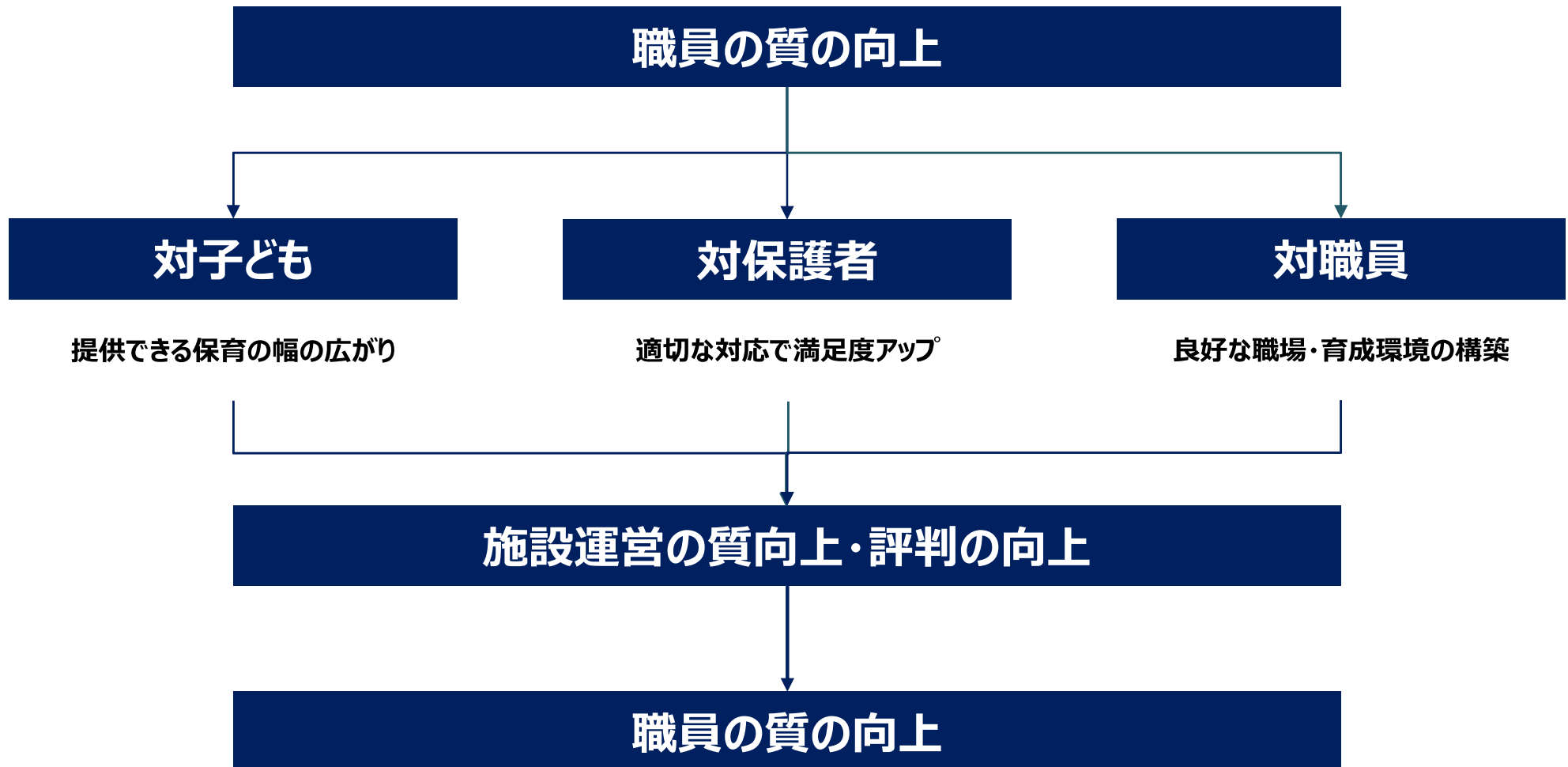
認知し「比較検討」の上での入所
一番良い施設を選ぶことができる

「質」は様々な定義があるが、
保育の質と“保育を提供する”職員の質は
密接に連動している

「選ばれる施設」を目指す

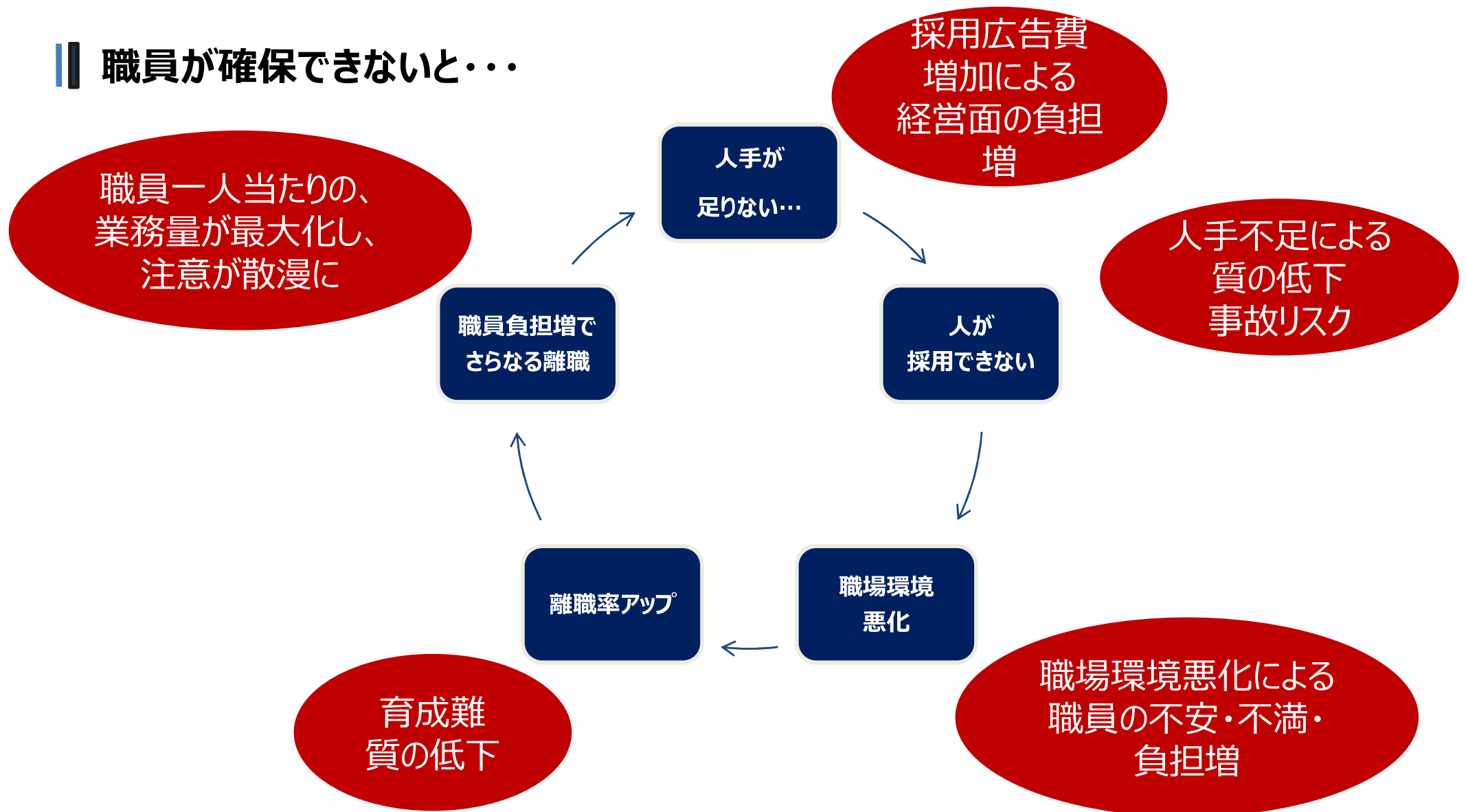
学童業界を取り巻く外部環境

Ⅱ 職員の質向上を起点とした理想の循環



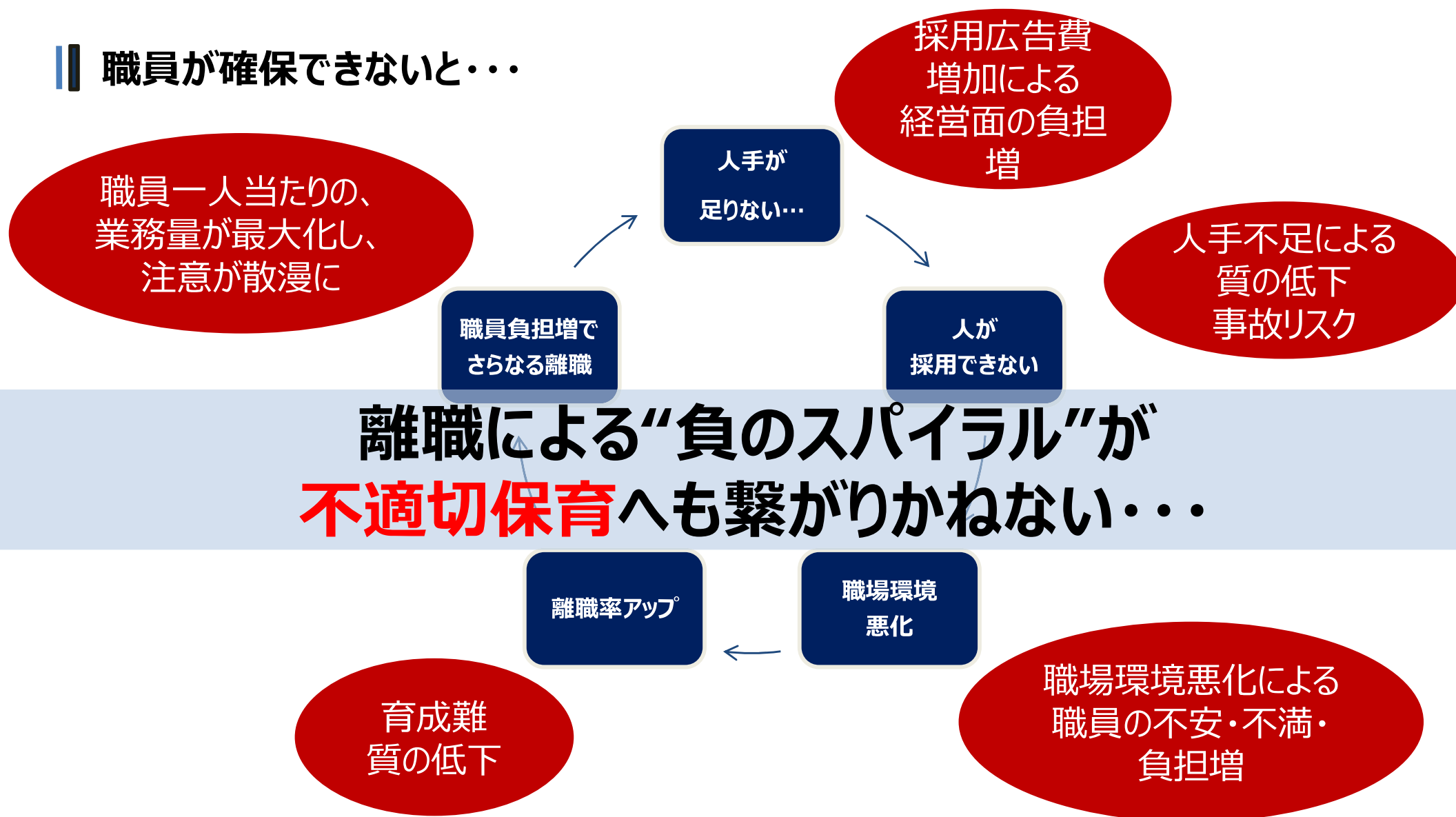
学童業界を取り巻く外部環境

職員が確保できないと...



学童業界を取り巻く外部環境

職員が確保できないと...



学童業界を取り巻く外部環境

「量」の問題

高止まりする待機児童
まずは全員が入所できる環境づくり

少子化が進む中で
いずれ需給バランスは逆転する

「質」の問題

最低限の職員確保
安定した組織体制づくり
安心・安全な施設運営

他ではなく「ここに通わせたい」
生き残る施設づくり

学童業界を取り巻く外部環境

「量」の問題

「質」の問題

中長期的な未来を見据えた時に
「質」をしっかりと高められる職員体制づくりが
より求められるようになる

少子化が進む中で
いずれ需給バランスは逆転する

他ではなく「ここに通わせたい」
生き残る施設づくり

職場環境改善の進め方

3. 事業所向け調査結果概要①

調査概要

放課後児童クラブ事業所に対し、DX等の推進状況についてのアンケート調査を実施。（回答数8,404件）

主な調査結果

①業務支援ICTの導入の有無

有り	3,288事業所	39.1%
無し	5,116事業所	60.9%

(SA) N=8,404

②自治体システムとの連携状況

(①で有りと回答した3,288事業所対象)

連携している	693事業所	21.1%
連携していない	1,947事業所	59.2%
わからない	588事業所	17.9%
その他	60事業所	1.8%

(SA) N=3,288

③システム導入等にあたって研修の実施状況

(①で有りと回答した3,288事業所対象)

実施した	2,425事業所	73.8%
実施していない	863事業所	26.2%

(SA) N=3,288

④導入しているシステムの機能

(①で有りと回答した3,288事業所対象)

利用申請の管理	1,004事業所	30.5%
入退室の記録・管理	2,522事業所	76.7%
利用料・延長料の計算	641事業所	19.5%
利用料・延長料の決済	472事業所	14.4%
保護者からの欠席・遅刻の受付	2,464事業所	74.9%
保護者への連絡	2,550事業所	77.6%
法人・事業所内の事務連絡	646事業所	19.6%
職員の出退勤管理	1,267事業所	38.5%
連絡帳の記入・確認	633事業所	19.3%
送り出しの管理（帰宅時間や帰宅方法の管理など）	857事業所	26.1%
送迎バス等の管理	38事業所	1.2%

(MA) N=3,288

回収率について 32.6%

総事業所数 25,807か所（R5.5.1時点）

回収数 8,404件

※自治体を経由して配布したが、オンライン調査であり、環境が整わない事業所の回答がない可能性がある。

5

職場環境改善の進め方

3. 事業所向け調査結果概要②

主な調査結果

⑤現状、業務負担が大きいと感じているもの（事業所規模別）

	70人以上 (2,971事業所)		40人以上70人未満 (2,584事業所)		40人未満 (2,849事業所)	
	事業所数	割合	事業所数	割合	事業所数	割合
利用申請の管理	1,195	40.2%	837	32.4%	830	29.1%
入退室の記録・管理	870	29.3%	565	21.9%	490	17.2%
利用料・延長料の計算	574	19.3%	542	21.0%	599	21.0%
利用料・延長料の決済	362	12.2%	356	13.8%	394	13.8%
保護者からの欠席・遅刻の受付	1,076	36.2%	890	34.4%	840	29.5%
保護者への連絡	945	31.8%	805	31.2%	913	32.0%
法人・事業所内の事務連絡	288	9.7%	327	12.7%	395	13.9%
職員の出退勤管理	640	21.5%	475	18.4%	576	20.2%
連絡帳の記入・確認	356	12.0%	359	13.9%	353	12.4%
送り出しの管理 (帰宅時間や帰宅方法の管理など)	738	24.8%	440	17.0%	357	12.5%
送迎バス等の管理	70	2.4%	136	5.3%	156	5.5%

⑥導入課題

導入のメリットが感じられない	1,131	13.5%
職員がデバイスやアプリの操作に苦手意識がある	4,255	50.6%
どのような業務支援システムを選べばよいかわからない	1,924	22.9%
法人責任者や行政担当者などの決裁者が導入に消極的	322	3.8%
インターネット環境など事業所全体の設備投資に関する決定権限がない	1,279	15.2%
システム導入に必要な予算(初期費用)の確保ができない	1,800	21.4%
月々のシステム利用料などランニングコスト(月額費用)を捻出できない	1,680	20.0%
インターネット環境やPCなどの整備に必要な予算(設備費用)	1,073	12.8%
個人情報やセキュリティ上の懸念・制約がある	1,118	13.3%
保護者に対する周知・事前説明・同意取得等に時間や手間がかかる	1,659	19.7%

結果概要

- 業務支援ICTを導入しているクラブは**40%**程度。そのうち自治体システムと連携はしているクラブは**20%**程度。
- 導入している機能は「保護者への連絡」「入退室の記録・管理」などの児童・保護者対応に関係するものの割合が高い。
- 業務負担は、事業所規模によって若干異なるが、「**保護者とのやりとり**」に集中している。
- 導入課題としては、「**苦手意識**」「**システム選択**」「**費用**」が挙げられている。

職場環境改善の進め方

|| ICT導入によるメリット

業務効率化と職員の負担軽減

手作業の事務負担を軽減し、残業減・こどもに向き合う時間の拡大

安全管理の強化

リアルタイムでの情報把握や確実な連絡手段の確保による児童の安全性確保

経営改善と組織力向上

人件費等のコスト削減、労務環境改善による定着率向上

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

Ⅱ 陥りがちなケース

じゃあうちでもICTを入れてみよう！

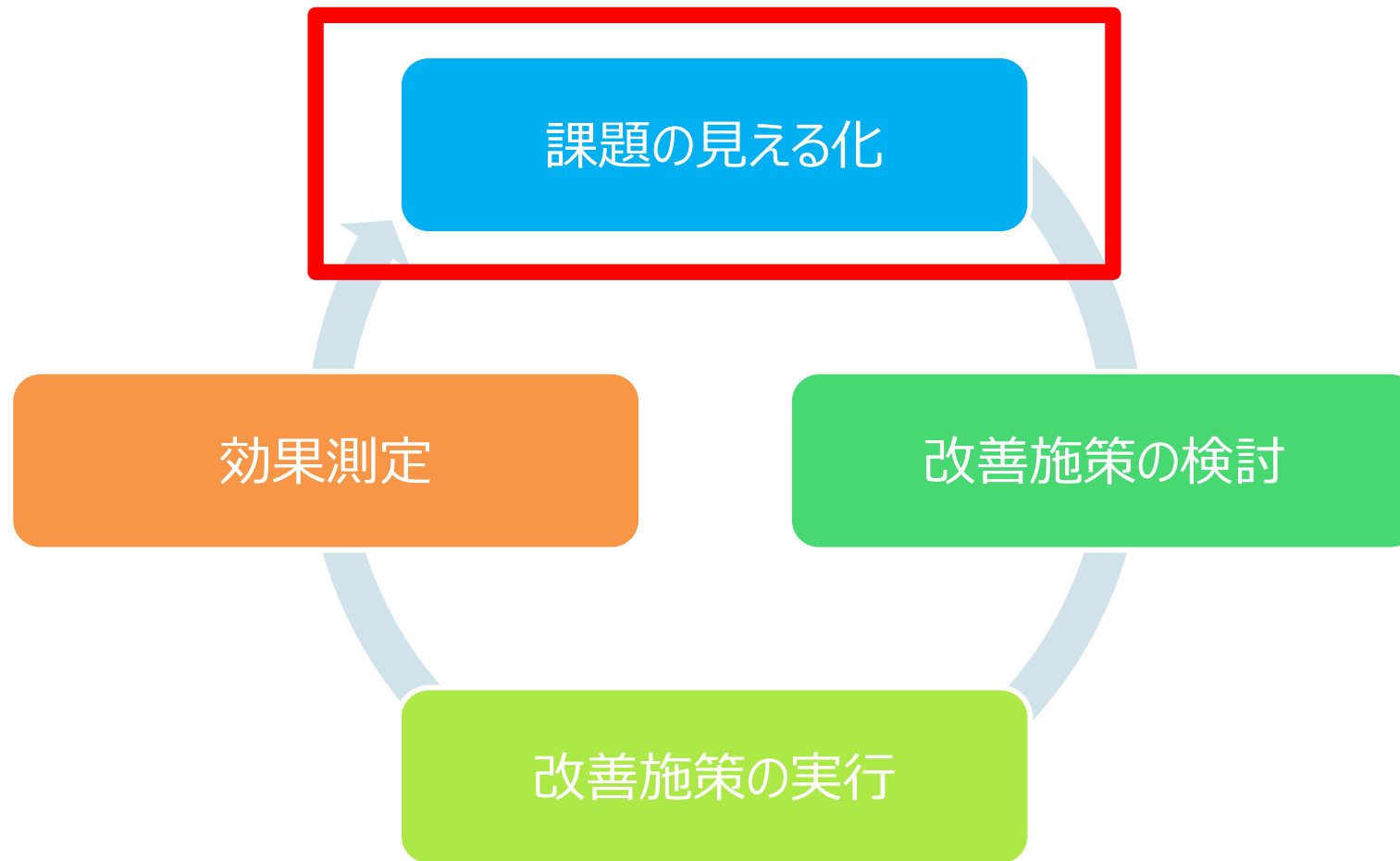


課題解決に向けた姿勢は素晴らしいですが・・・

- ・ 何を目的とするかが曖昧で頓挫・・・
- ・ とりあえず入れたけど全然活用できていない・・・
- ・ タブレット等の機器導入で意外とお金がかかる・・・
 - ・ 費用だけが嵩み結局解約・・・

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

働きやすい環境を作るためのフロー



働きやすい環境を作るための具体的な流れ

課題の見える化～職員アンケートの実施～

日常業務の業務量アンケート

◆基本情報

1. 役職（主任・副主任・専門リーダー・職務分野別リーダー・クラス担任・一般 等）

2. 雇用形態
☐ 常勤職員（時短勤務も含む）
☐ 非常勤職員（フルパート）
☐ 非常勤職員（短時間パート）

◆保育関係の業務について

先月1か月でかかったおおまかな業務時間について、1分単位ご記入ください。
20番目以降で新規に追加する業務項目があれば追記して回答してください。

3. 月案作成

4. 週案作成

5. 児童票作成

6. 日誌記入

7. 連絡帳の記入

8. その他保育関係書類の作成・記入

9. シフト作成

10. おたより作成

◆その他の業務について

28. 先月の残業時間をお教えください

29. 先月の持ち帰り仕事の時間をお教えください

30. 日々の業務や行事業務の中で、負担に感じている仕事があればお教えください。

31. その他、現在の働く環境について、負担に感じていることがあればお教えください。

匿名性を意識していただくなど、
本音を引き出しやすい工夫を

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

Ⅱ アンケートの具体的な項目例

◆ 基本情報

役職・雇用形態

◆ 業務内容の内訳

先月1か月でかかったおおまかな業務時間について、
1分単位でご記入ください。

- ・指導案作成
- ・児童表作成
- ・日誌記入
- ・連絡帳記入
- ・その他書類の作成・記入
- ・シフト作成
- ・おたより作成
- ・外部業者、行政等とのやり取り
- ・研修への参加
- ・清掃、安全点検

◆ その他の業務について

- ・先月の残業時間をお教えてください。
- ・先月の持ち帰り仕事の時間をお教えてください。
- ・日々の業務や行事業務の中で、
負担に感じている仕事があればお教えてください。
- ・その他、現在の働く環境について、
負担に感じていることがあればお教えてください。

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

課題の見える化～ワークの実施～

◆目的

現場保育士が抱える働く上での課題を洗い出す

◆会議の実施にあたって

議題・課題の事前共有

その日に日々抱えている課題を出してほしいと話をして、すぐに出すことは難しいことも多いため、事前に議題と、会議までに自身が業務上課題に感じている点を考えてくるように連絡する。

会議当日のオペレーション（例）

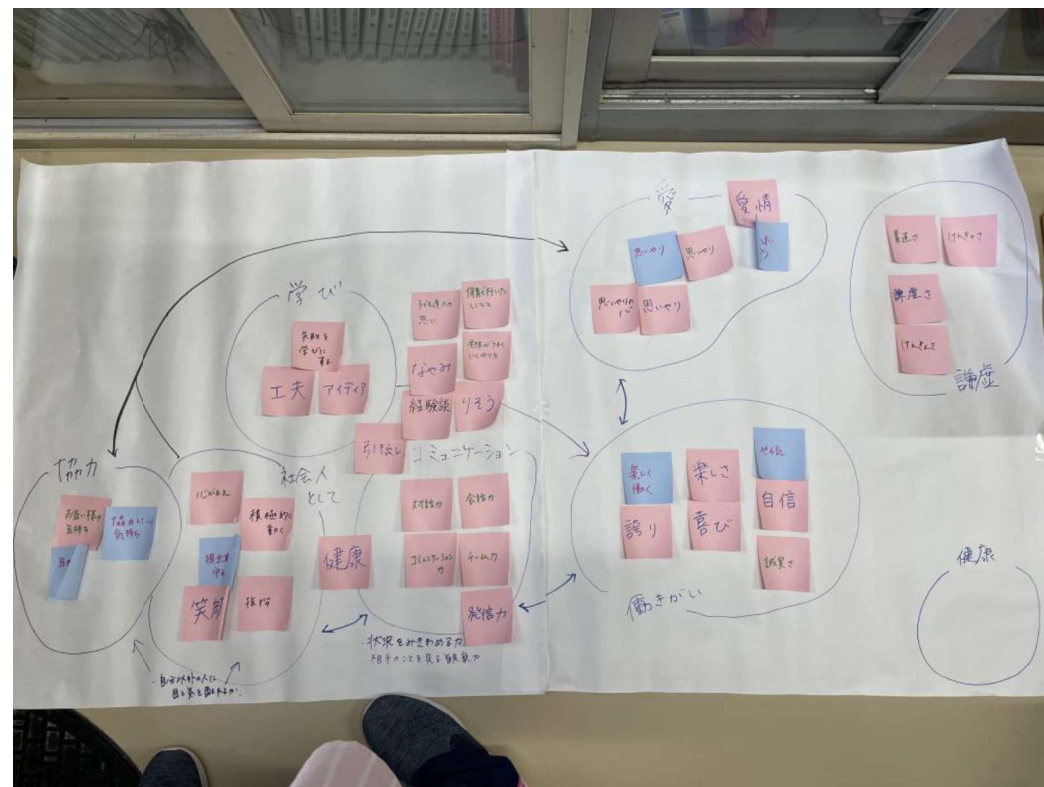
3～4名でチームを作成する



付箋に意見を書き、チームごとに方眼紙に貼る



優先度や重要度に応じて分けていく



多くの方に納得感を持っていただきやすい体制整備を

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

働きやすい環境を作るためのフロー



II 施策実行に向けて

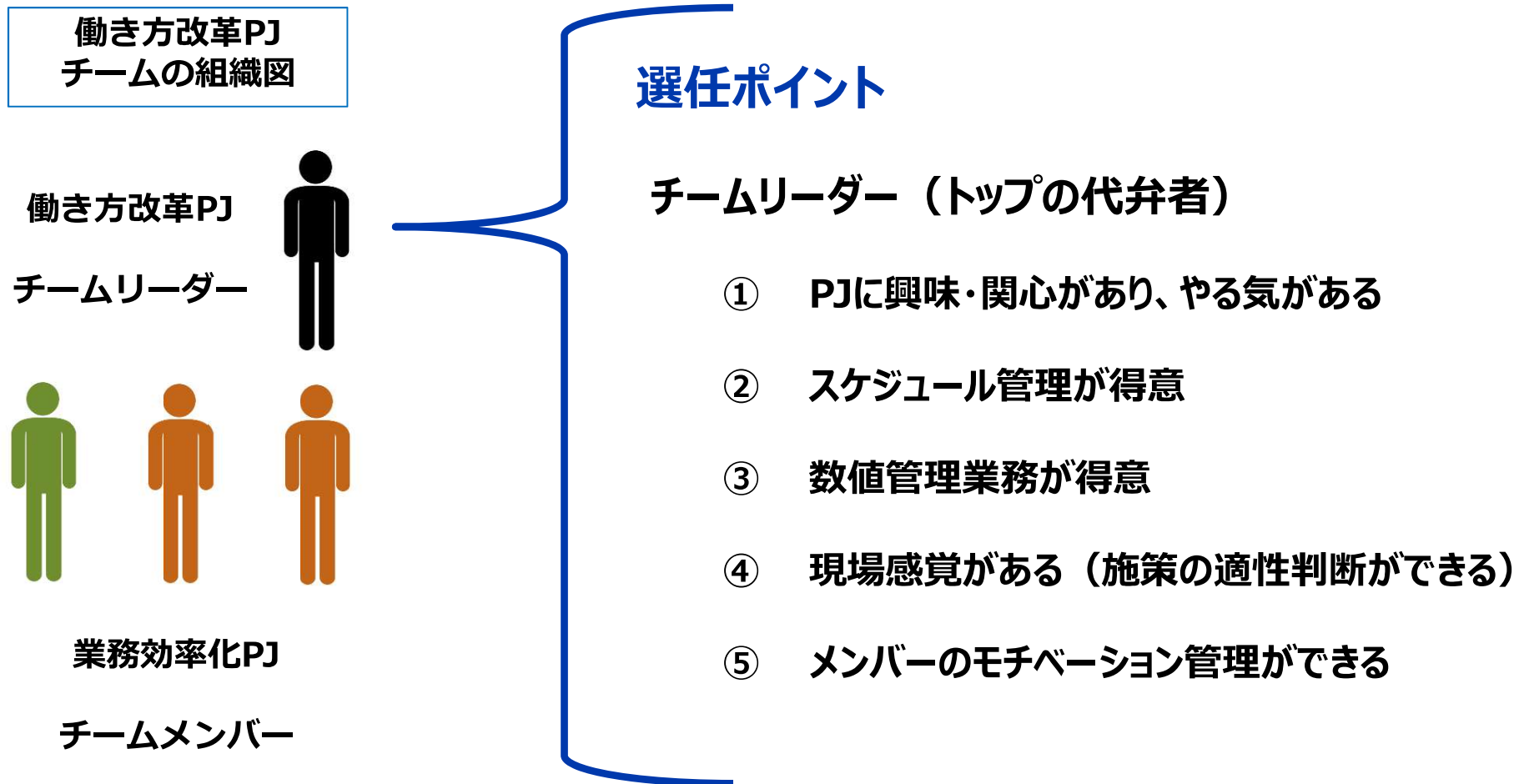
プロジェクトチームの発足×全職員への方針発表



**職員1人1人が当事者意識を持ち
同じ方向を向いて実施するための取り組み**

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

Ⅱ プロジェクトチームの発足



働きやすい環境を作るための具体的な流れ

プロジェクトチームの発足

働き方改革PJ
チームの組織図



選任ポイント

チームメンバー

- ① PJに興味・関心があり、やる気がある
- ② ベテランメンバー
- ③ 若手メンバー
- ④ 職員間の信頼度が高い方
- ⑤ 2~3人の起用で構成

組織規模に合わせて、柔軟な体制構築を

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

Ⅱ 全職員への周知

◆発表者（参考）

理事長or室長

法人（施設）として働き方改革に取り組むことを明確に伝えるため。働き方改革の目的などをお話いただく

働き方改革PJチームリーダー

PJチームの役割、具体的な施策やチームメンバーの紹介を行う

◆発表の際のポイント

1. 施設として“働き方改革に取り組むこと”を明確に伝える
2. 働き方改革はただ楽をするのではなく、保育の質をさらに高めるために行うなど、施設としての実施目的を明確に伝える
3. 職員1人1人が当事者意識をもって主体的に行う必要があることを伝える
4. 具体的に実施する施策を説明し、協力を仰ぐ

方針発表会
明日 (O)

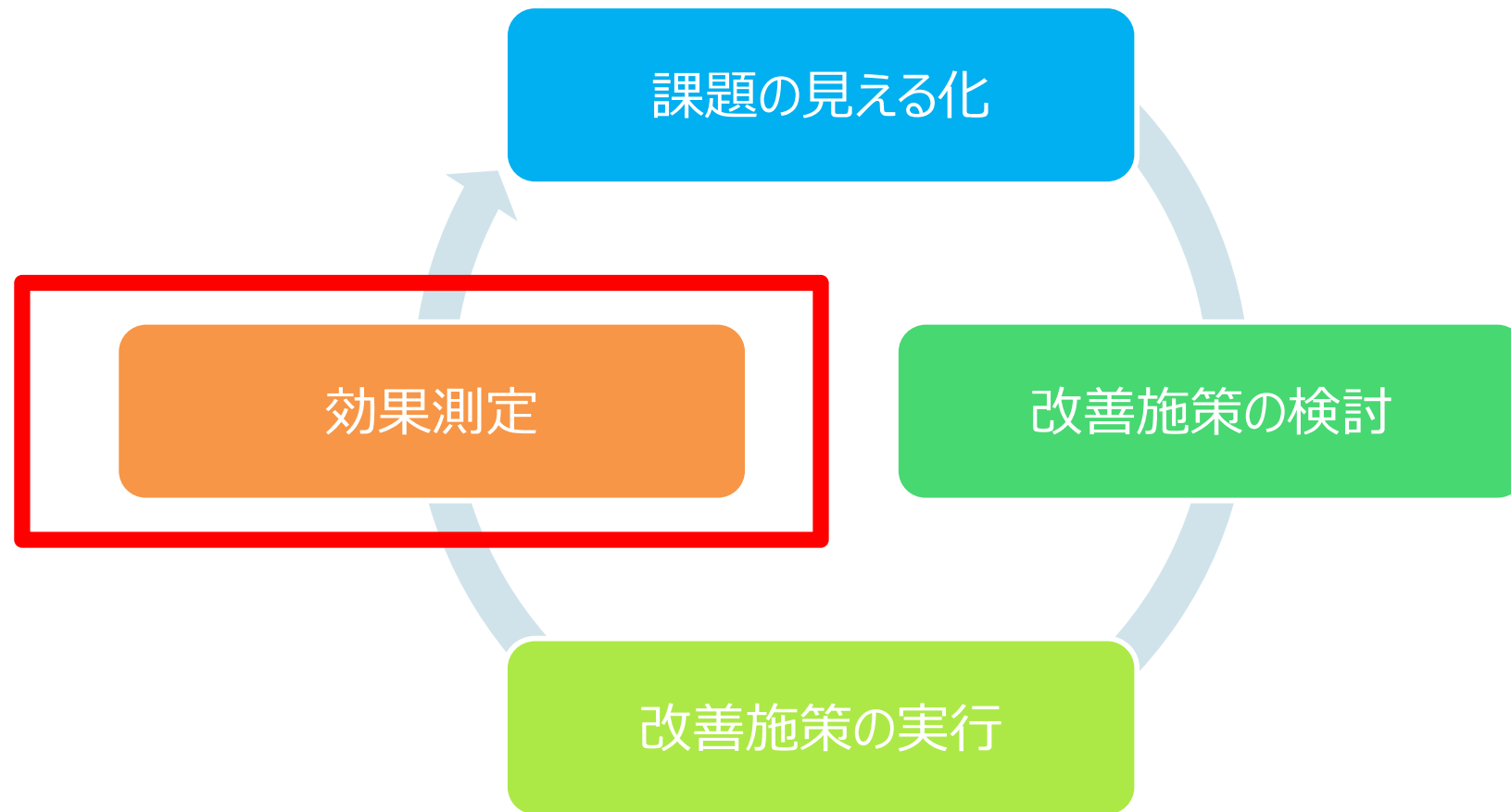
この度、
[redacted]で
働き方改革
を実施いたします！

O月より以下3つにチャレンジします

1. 書類・日誌の棚卸し、見直し
2. 休憩時間の確保
3. 残業・持ち帰り仕事の削減

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

働きやすい環境を作るためのフロー



働きやすい環境を作るための具体的な流れ

II 実施施策の効果測定

◆効果測定の目的

施策が実際に効果が出たのかの確認

しっかりと経過を追うことで、確実な成果を出していくことが目的である。

法人・施設全体のプロジェクト事業推進力の向上

チームメンバーや職員の頑張りを結果として示し、職員の頑張りをねぎらうことで、施設全体のプロジェクト推進力を高める

◆効果測定を行う際のポイント

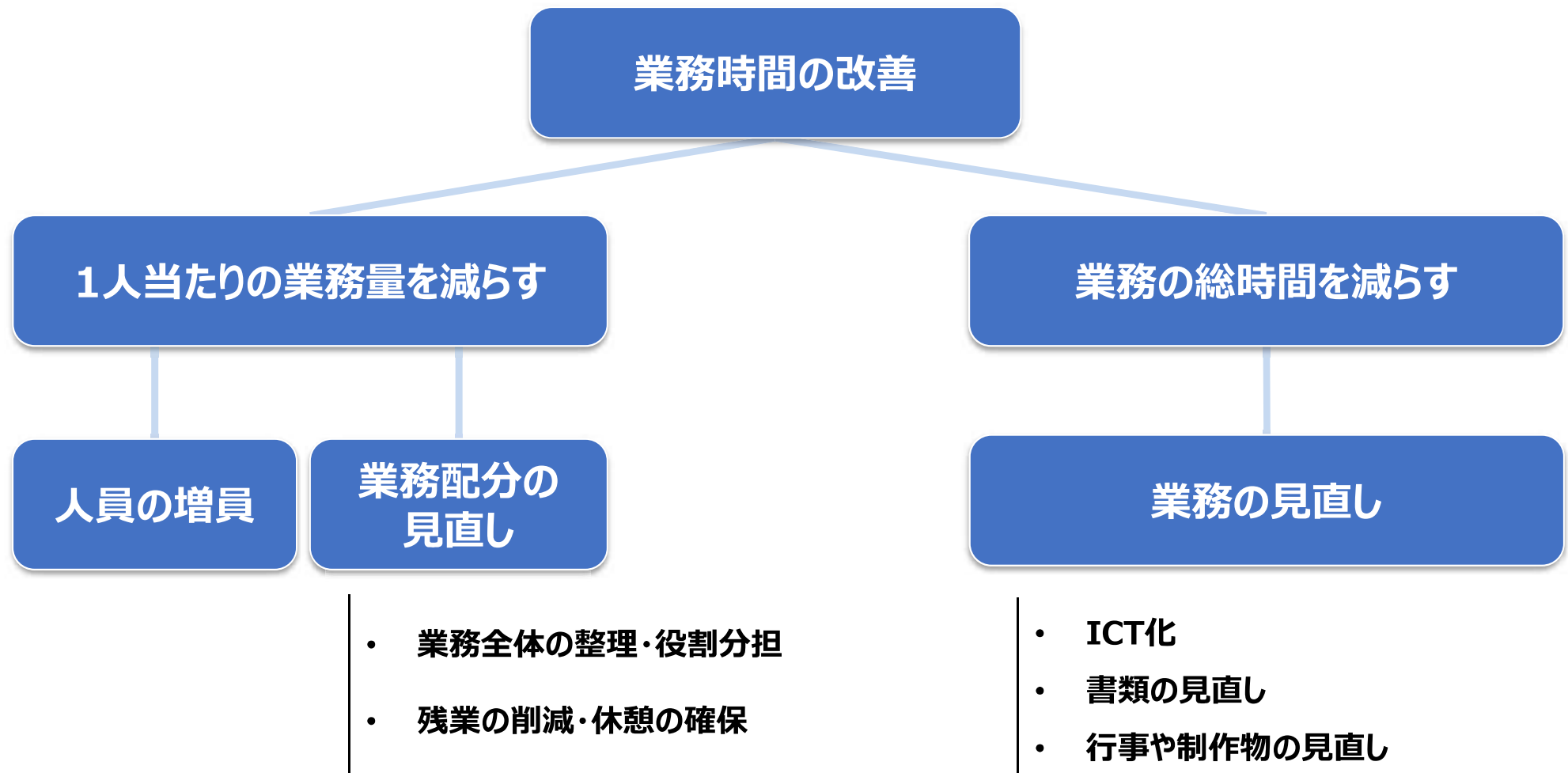
定量的な指標を設置

アンケートやヒアリング等を通して、下記のように客観的に施策効果測定を行う

1. 業務時間に変化があったか
2. 持ち帰りや残業は減ったか
3. 休憩時間は確保できたか 等

働きやすい環境を作るための具体的な流れ

Ⅱ 業務時間の改善に必要な事項



実践事例～ICT化～

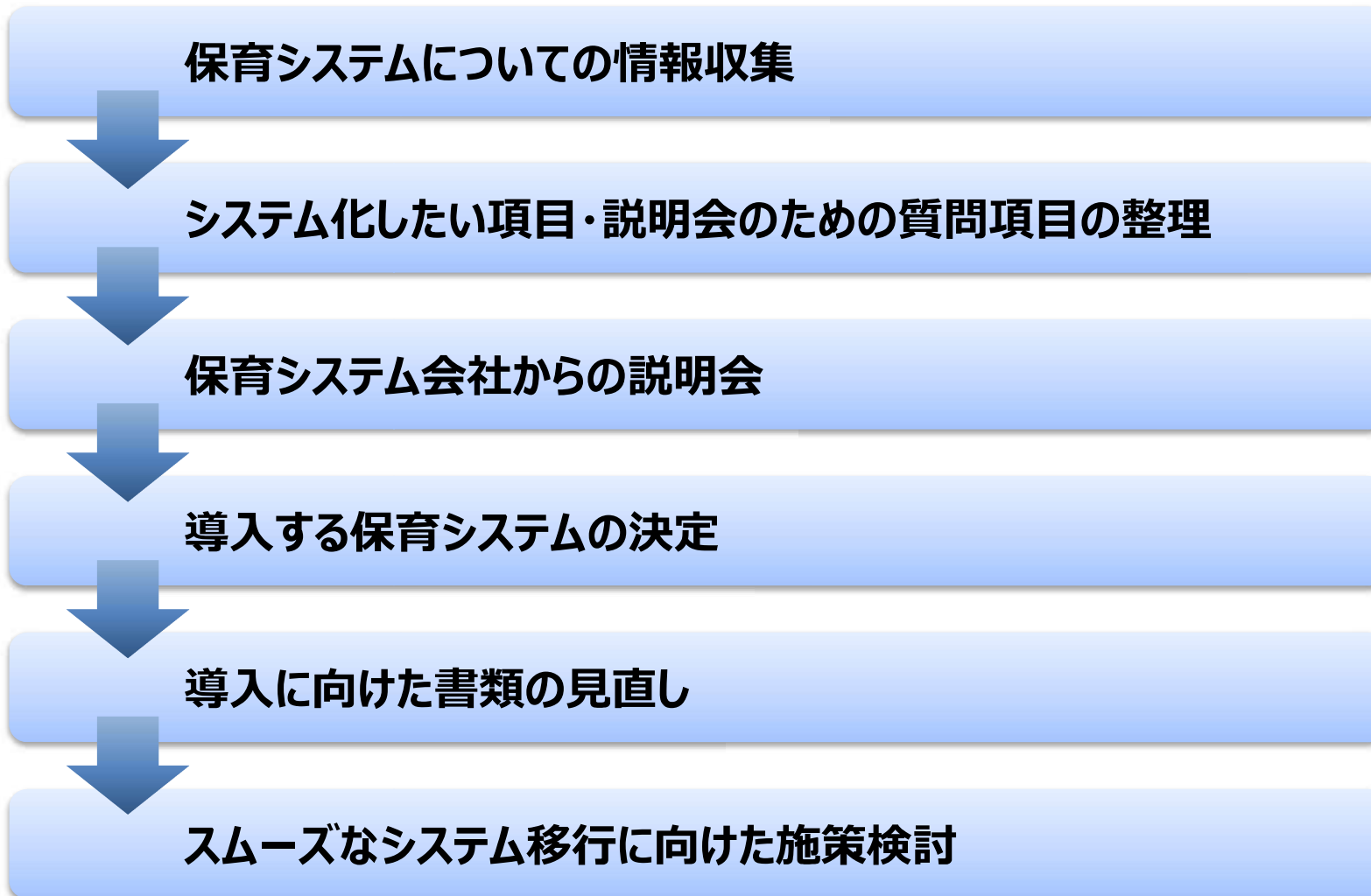
Ⅱ よくあるお悩み

- ✓ 保護者からの電話対応に追われて他の仕事ができない
- ✓ 書類のチェック作業に追われ、こどもや保護者とのコミュニケーションの時間が満足に取れない
- ✓ 書類作成に時間がかかって活動に影響が出てしまったり、残業や持ち帰り仕事になってしまっている
- ✓ 紙の書類が多すぎて、探すのに時間がかかる 等・・・

ICT化の検討をぜひお願いします！

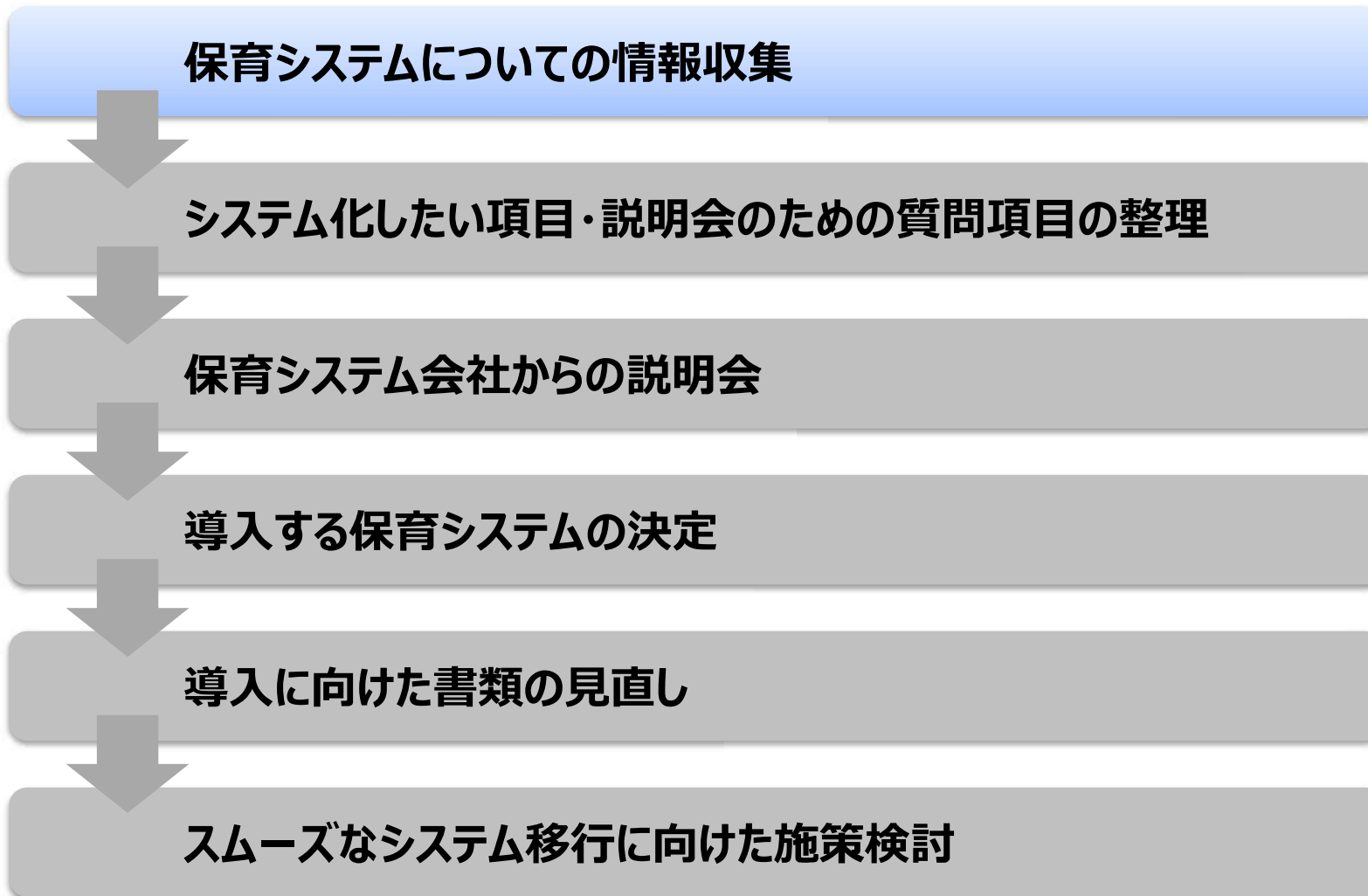
実践事例～ICT化～

Ⅱ ICT化までの流れ



実践事例～ICT化～

Ⅱ ICT化までの流れ



実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

保育システム機能例

1. 保護者連絡
2. 児童の入室・退室管理
3. 活動に関係する計画・記録業務
4. 職員の出退勤管理＋シフト作成・管理

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆保護者連絡

対応業務

1. 欠席・遅刻連絡
2. 一斉連絡
3. 連絡帳機能 等

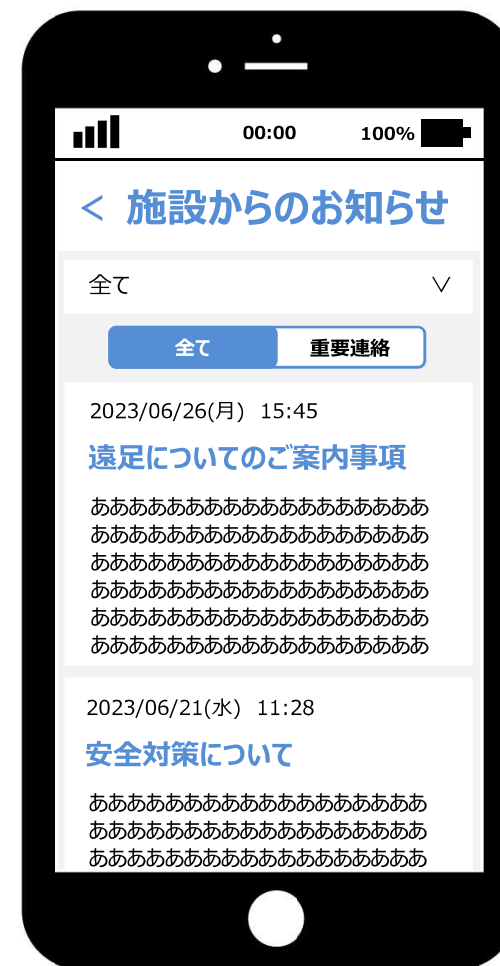
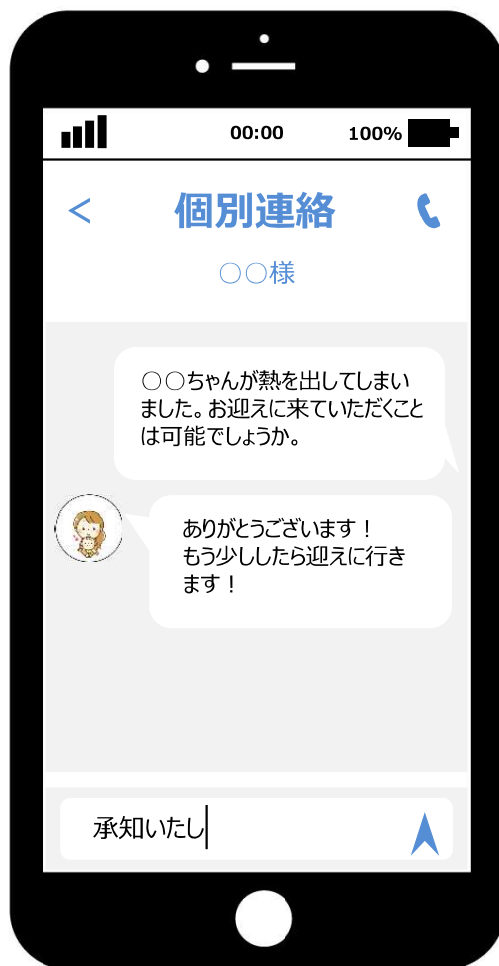
メリット

1. 電話対応を減らすことで朝の欠席・遅刻対応や一斉連絡の省力化
2. お便り等を電子化し、印刷・郵送業務等を削減
3. データの自動反映が可能になり連絡帳記載時間を削減 等

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆ 保護者連絡



保育システムについての情報収集

◆保護者連絡

- ✓ 一斉連絡等に既読機能があるか
- ✓ ファイルの添付数を複数にできるか
- ✓ 連絡帳機能があるか、連絡帳は日誌と連動しているか

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆ 児童の入退室、職員の出退勤管理

対応業務

1. 入室管理
2. 退室管理 等

メリット

1. 手書きによる書き間違い・書き忘れ、そこに割く人員の削減
2. 延長保育等の時間の管理が可能
3. システムと人のWチェックができ安全性を高めることが可能 等

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆ 児童の入室・退室、職員の出退勤管理



実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆児童の入室・退室、職員の出退勤管理

- ✓ 両親以外のお迎え者の登録は可能か
- ✓ 何を使用して入退室管理を行うか
(ICカード・QRコード等)
- ✓ セキュリティ体制はどうなっているか

入退園管理

管理を行うか				実績	
A		18:00	8:25	:	-
B		17:00	8:28	:	17:20
C	8:30	18:00	8:35	:	-
D		17:00	8:50	:	16:57
E		17:30	8:30	:	17:34
F		18:00	8:27	:	-
G	9:00	17:00	8:55	:	17:13

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆写真共有・販売

対応業務

1. 撮影した写真のシステム上での共有・販売
2. AIによる写真の選別 等

メリット

1. 印刷や配布の手間が省ける
2. 簡単操作で保護者の利便性・満足度の向上

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆法人全体での情報共有

対応業務

1. 各教室の運営状況のリアルタイム把握・確認
2. 施設のデータを踏まえた分析・改善 等

メリット

1. 現場・本部双方の確認・共有の手間が省ける
2. リアルタイムかつデータで確認が可能

実践事例～ICT化～

Ⅱ 保育システムについての情報収集

◆保育に関する計画・記録業務

対応業務

1. 安全計画
2. 育成支援の目標・計画
3. 日・週・月案 等

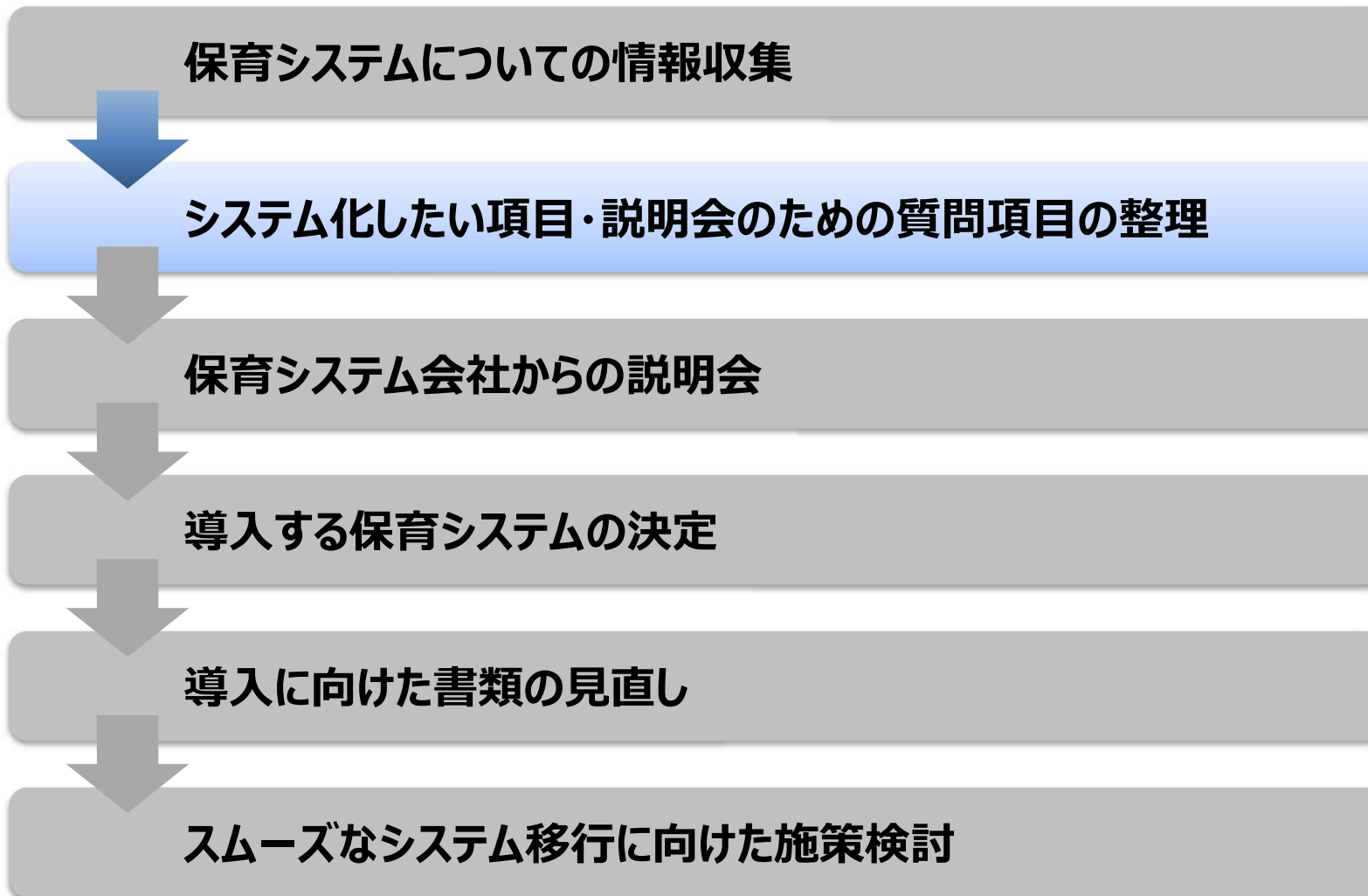
メリット

書類作成時間の削減ができる

1. データの自動反映が可能である
2. 項目ごとに例文がある
3. コピー&ペースト等のショートカット機能を使える 等

実践事例～ICT化～

Ⅱ ICT化までの流れ



実践事例～ICT化～

Ⅱ システム化したい項目・説明会のための質問項目の整理

◆システム化したい項目整理のためのポイント

1. 施設の考え方や今の実施体制に沿って検討する
2. 短期ではなく、中長期的な視点を持ちながら検討する
3. 導入後の予想外の事態を減らすために、事前に導入に当たって知りたいことを整理し、説明会に臨む

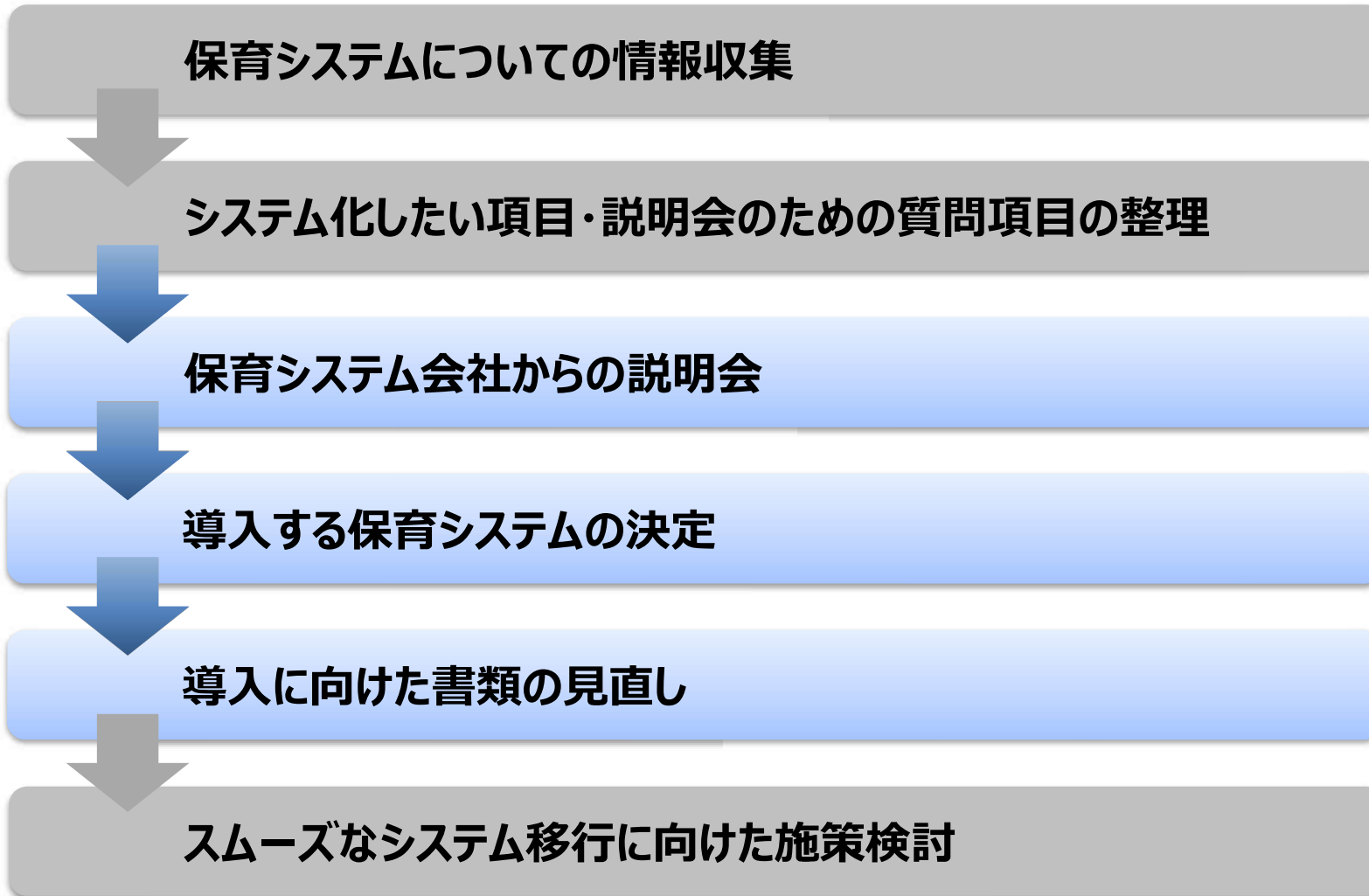
Ⅱ システム化したい項目・説明会のための質問項目の整理

◆質問項目としてよく上がるもの

機能	質問例
保護者連絡	・ 一斉連絡等に既読機能があるか ・ 保護者連絡の際にはファイルの添付数を複数にできるか ・ 連絡帳機能があるか、連絡帳は日誌と連動しているか
入退室管理	・ 入退室システムは両親以外のお迎え者の登録は可能か ・ 入退室システムは何を使用して管理を行うか（ICカード・QRコード等） ・ 入退室システムはセキュリティ体制はどうなっているか
書類作成関係	・ 保育計画系の書類の様式のカスタマイズは可能か ・ 他書類との連動性はあるか

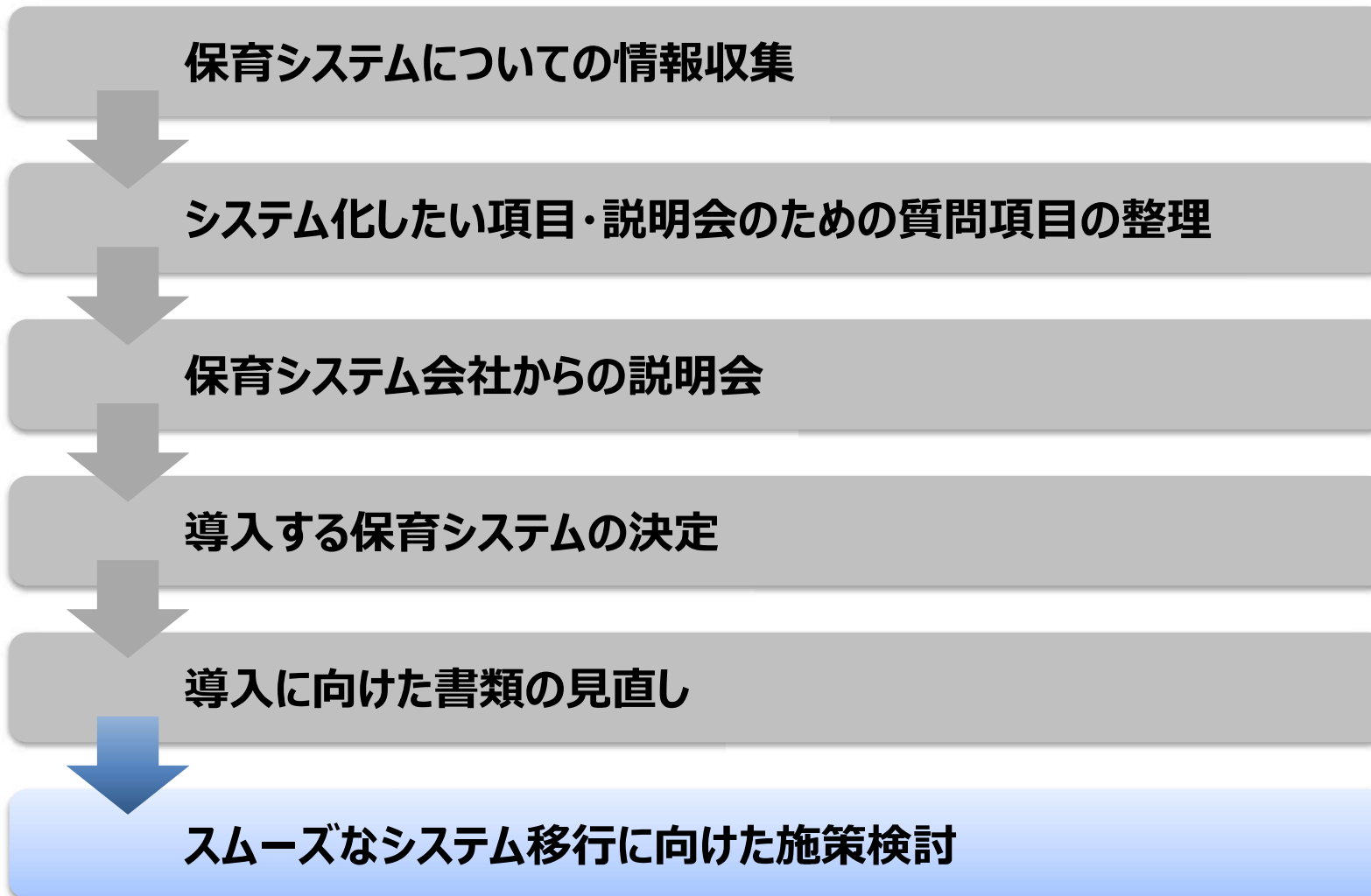
実践事例～ICT化～

II ICT化までの流れ



実践事例～ICT化～

II ICT化までの流れ



Ⅱ スムーズなシステム移行に向けた施策検討

◆移行施策事例

1. 現場の混乱を避けるために段階的なシステムの導入
2. ハードルがやはり高い場合には、少額・少機能のものから簡易的にスタートし、徐々にステップアップを検討することも考えられる
3. 段階的にシステム移行をするために、パソコンが苦手な方には手書きを許可
4. チームメンバーを中心に、教える内容を決めスケジュール化したうえで、各学級・施設でパソコンの基本操作等を苦手な方にレクチャー
5. システム会社が行っている研修に参加し、システムの使い方について定期的なインプットの場を設ける
6. ICT担当を任命し、パソコンに苦手意識のある方のサポートを行うようにし、フォローアップ体制を構築

ICT導入のその先に

|| ICT導入はあくまで手段、その先に目指すものは

ICT化は目的ではない

ICT化をすることがゴールにならないように

「何を実現したいのか」を明確に取り組む

運営の質向上、働きやすい環境づくり、経営効率アップなど、目的を明確に

長期的かつ職員を巻き込んだ実践を

短期間・1人では進まない 長く広い目線で取り組みを進める

ICT導入のその先に

|| こどもたちの明るい未来のために

運営品質の向上が、こどもたちの明るい未来を創る

ICT活用にとどまらず、質の高い事業運営は
何よりもそこに通うこどもたちの育ちに直結します。

働く職員がこどもたちと全力で向き合い、
その育ちを最大限サポートできるよう、
「質の高い保育」づくりに挑戦してみてください。